

オリンピック・パラリンピック東京2020大会に向けて

東京大会の基本コンセプト

1 全員が自己ベスト

- 全てのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮し、自己ベストを記録できる大会を実現
- 世界最高水準のテクノロジーを会場整備や大会運営に活用
- ボランティアを含む全ての日本人が、世界中の人々を最高のおもてなしで歓迎

2 多様性と調和

- 人種、肌の色、性別、言語、宗教、政治、障害の有無などあらゆる違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合う社会をつくる
- 世界中の人々が、多様性と調和の重要性を認識し、共生社会を育む契機に

3 未来への継承

- 成熟国家となった日本が世界にポジティブな変革を促しそれらをレガシーとして未来へ継承

大会運営の基本姿勢

❖ アクション&レガシー

地方自治体も含め、多様な関係者が連携し、行動を起こすことで様々なレガシーを残す

❖ ダイバーシティ&インクルージョン

多様な人々が違いを認め互いを尊重することで、イノベーションを生み出す

❖ 持続可能性（参加と協働）

- 持続可能性に配慮した大会の実現に向けたボランティアや観客など一般の方々の参加と協力
- SDGsゴール17「パートナーシップ」誰もが主役の開かれた大会を多くの方々の参加協働により作り上げていくことを施策全体の大目標に

共に楽しむ「パラスポの輪プロジェクト」

参画

障害当事者、企業、教育、介護福祉医療、学生など様々な立場の関係者が企画段階から参画

最高のおもてなし

オール千葉の「おもてなし」
障害の理解と合理的配慮によるバリアの解消

共に楽しむ

つながる

様々な出会い、人と人が繋がる
取り組み成果が若い世代や高齢者へと
障害のある人がスポーツ、芸術活動へと
繋がる

感動と共感

パラスポーツを観戦の感動と行動
参画した人々の共感と理解

施策の柱

- ① パラスポ、芸術への参加者拡大
- ② 競技団体・クラブ活動支援
- ③ 企業・大学等の参画促進
- ④ 全市町村での取組促進
- ⑤ パラスポ、芸術指導員の広がり

～東京2020は芸術の祭典～

・障害者文化芸術活動推進法の成立

千葉県文化芸術振興条例の成立

プロジェクトの様々な取り組みについて

(1) パラ「旅」応援事業（新規） 施策の柱：①③

障害のある方のパラスポーツ国際大会の観戦を支援し、2020大会の観戦、ひいては自身のスポーツ活動へ繋げるとともに、ボランティアや施設受入側の参加者の障害の理解や新たな介護観を醸成し、障害のある人の社会参加を促進する。

【事業展開のポイント】

障害のある人、学生ボランティア等に参加いただき、観戦支援組織を立ち上げ、民間企業と連携し、移動に困難を伴う障害のある人を含む障害施設利用者、在宅障害者のパラスポーツ観戦や商業施設のイベント等への参加を実現する。

(2) 県内開催競技観戦・応援促進事業（新規） 施策の柱：①③

児童・生徒等を対象に、県内で開催する各種国際大会の観戦及び事前・事後学習の支援を実施します。

【事業展開のポイント】

児童・生徒を対象に観戦ルールやマナーを理解するための事前学習、競技を観戦した後の感想の共有等の事後学習を推進し、競技への興味関心を高め、東京2020大会の観戦へ繋げる。

(3) パラスポーツフェスタちば2019の開催（継続） 施策の柱：①③

障害のある人もない人も共に楽しめるパラスポーツイベントを開催する。

【事業展開のポイント】

より多くの企業や大学、特別支援学校等から参加者を募りパラスポーツを通じた交流の場とする。また、このイベントを通して、参加者間による新たな企画や連携を促進する。

(4) パラスポの『輪』フォーラムの開催（新規） 施策の柱：①②③④⑤

関係機関を巻き込んだフォーラムを開催し、プロジェクトへの参画を促す。

【事業展開のポイント】

- ・顔の見える関係をつくりプロジェクトの推進力に。
- ・多くの県民・企業・大学・事業者がパラリンピックの理念を共有、機運を盛り上げ、個別事業への参加を通じた活動へと繋げる。

(5) 障害者スポーツ競技団体支援事業（新規） 施策の柱：①②

パラスポーツの活性化を図るため、県内のパラ競技団体の体制整備や体験会等の開催に係る取組に対して助成を行う。

【事業展開のポイント】

- ・千葉県障がい者スポーツ協会の体制を強化し、有力選手の調査・育成のほか、競技団体と協力企業・大学の活動を結びつける。
- ・助成事業の機会を捉え、組織化されていない競技団体の設立を促進。

(6) 障害者スポーツ大会等コーディネーター派遣事業（継続） 施策の柱：①④

コーディネーターによる市町村のパラスポの取組を支援し、体験会や教室等の開催を促す。

【事業展開のポイント】

- ・コーディネーターが市町村と地域資源（大学や施設、指導者等）を結び付け、東京2020大会後も継続した取組が出来る体制をつくる。
- ・市町村担当課会議を開催し、先進事例を情報共有し、全市町村の取組を推進する。

(7) 障害者スポーツ指導者養成（継続） 施策の柱：⑤

県内障害者スポーツ指導者を増加させ、地域での指導の場を広げる。

【事業展開のポイント】

- ・コーディネーター派遣事業等との連携から、実施場所を考慮し、養成した指導者が即座に活躍できる場へ繋げる。
- ・年間80名を養成し、指導者の増加を図り、各地で指導を受けられる環境を目指す。

(8) 障害のある人のスポーツ施設利用促進講座（継続） 施策の柱：①④

障害者優先スポーツ施設の千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターのノウハウを活用し、障害のある人のスポーツ施設の利用促進を図るための講座を実施。

【事業展開のポイント】

- ・センターのノウハウ（障害種別・発達段階に適したスポーツプログラムや配慮）を活かした講座をスポーツ施設職員等へ実施する。
- ・県内スポーツ施設での障害のある人の利用を促進する。

(9) 特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業（継続） 施策の柱：①⑤

特別支援学校が地域の障害者スポーツの拠点となり、障害者スポーツを推進する。

【事業展開のポイント】

- ・特別支援学校を障害者スポーツの拠点とするために、障害に応じたスポーツ種目の備品整備を行う。
- ・障害者スポーツ団体等と連携を図りながら学校毎に各種スポーツの推進とともに、地域における生涯スポーツの拠点づくりをすすめていく。

(1 0) 東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化支援事業（継続）

施策の柱：①

東京2020大会に本県ゆかりの選手をひとりでも多く輩出するため、出場が期待される選手を強化する取組に助成する。

【事業展開のポイント】

年代別の大会実績を除くなど選考基準をより高く設定するとともに、本県ゆかりの範囲を県内大学卒業者等も加えるなど指定範囲の見直しを行い、より一層パラリンピック出場に近い選手を重点的に支援する。

(1 1) 障害者アートネットワーク（仮称）の組織化と拠点の創設（新規）

施策の柱：①②③④⑤

「障害者芸術文化活動支援センター」を設置し、相談支援、人材育成、ネットワークづくり、発表機会創出、情報収集・発信等を行う。

【事業展開のポイント】

- ・研修会や作品展を通じて、障害者アート関係者の県内ネットワークを築き、課題や成果の共有を図ることで、活動の質の向上や裾野の拡大を目指す。
- ・ネットワークを活用し、東京2020大会の関連イベントを検討するなど、大会を契機として障害者アートの振興を図る。